『同志社大学　日本語・日本文化研究』第 12 号　pp. 67－86（2014. 3）

夏目漱石の三人称小説テクストにおける発言動詞の受動態の選択
―能動態との比較を通じて―

Choice of the Speech Act Verb in the Third Person Novel Text of Soseki Natsume
- Through the Comparison of the Active Voice and Passive Voice -

山本　和恵

要　旨

本稿では、受動態が選択される要因を明らかにするため、長い小説テクストの作品が多く存在する夏目漱石作品の前期三部作である『三四郎』『それから』『門』を調査対象とし、小説テクストの中で使用例の多い「言う」「聞く」「答える」「呼ぶ」などの発言動詞に焦点をあてて考察を行った。その際に、受動態と能動態の主語が主役であるか主役の周辺人物であるかを区別し、そこから発言動詞の受動態と能動態の用例数とその割合、テクストの内容から考察を行った。

その結果、三人称小説であっても、調査対象の作品はいずれも語り手が主役に寄り添うことが多いため、主役が行う発言動作には、主役が主語となり能動態が選択される。それに対して、主役の周辺人物が主役に発言する動作の場合は、周辺人物が主語になり能動態が選択される。一方、周辺人物が発言する動作を主役が受けた際に主役に何らかの感情が生じる場合は、主役が主語になり、受動態が選択されて、感情表現を伴って描かれることが多い。また、周辺人物が主役や周辺人物の発言する動作を受けた際に何らかの感情を生じる場合は、周辺人物が主語になり、受動態が選択され、ここでも感情表現を伴って描かれることが多い。つまり、主役であれ周辺人物であれ、動作を受けたことで何らかの感情を生じる場合は、主語を被動作主に変えて受動態が選択される傾向があることが明らかとなった。

キーワード

小説テクスト　視点　主語　一人称　三人称　受動態　能動態

1　はじめに

小説テクストには、登場人物と作中世界での出来事を語る語り手が存在する。小説の作者は、この語り手に小説の展開を託すため、だれが小説の語り手になるかが小説の形式を決定づける鍵となる。

小説テクストにおける語り手の位置について石丸（1985）は、一人称視点を「語り手が主役で登場し一人称で語る文章」と、単に「一人称の語り手を登場させて主役の側から主役の周辺に生起する文章」に分類している。また、三人称視点を「三人称の主役に身をよせ主役の側から主役の周辺に生起する文章（一元描写）」と、「作中に登場せず全知全能の『神の視点』から語られる文章」に分類されると指摘している。つまり、小説における語り手には、「一人称視点」と「三人称視点」の場合があり、小説のテクストを考える際にはいずれも物語の事件を描く語り手の位置を考えることが重要である。本稿では、一人称視点で書かれた小説を「一人称小説」、三人称視点で書かれた小説を「三人称小説」と呼ぶことにする。

さらに、小説テクストにおける受動態の選択については、これまでも奥津（1983）や小嶋（2004）[1] などの研究者によって論じられ、奥津（1983）は、受動態の選択理由に一度立てた主語は必要のない限り途中で変えないという「視点固定の原則」を挙げ、小嶋（2004）は、「文学作品では主人公など軸となる人物の立場から述べる文が優先される」と述べている。これらは、受動態が選択される多くの理由として認められるであろう。但し、小説テクストは、描かれ方によって語り手の立場や作品世界との距離も違うものである。それによって、受動態の選択もテクストの描かれ方によって違いがあるのではないだろうか。

そこで、本稿では、受動態が選択される要因を明らかにするため、長い小説テクストの作品が多く存在する夏目漱石作品の前期三部作である『三四郎』『それから』『門』を取り上げる。これらの作品はいずれも三人称小説であり、語り手が主役の側に立ち主役が受けたことを感情をもって描写するため受動態が選択されることのみならず、語り手が主役から離れ、主役以外の周辺人物に近づき、話が展開されていくことが考えられる。こうした小説テクストの中で受動態が使用される場面において主役以外の感情を表すために受動態が選択されることが考えられる。そこで、本稿では小説テクストの中で最も使用例の多い発言動詞に焦点をあて[2]、有情物を主語とする受動態と能動態の用例数とその割合、テクストの内容から受動態の選択の要因を探っていくことにする。

2　調査対象

本稿では、夏目漱石作品において語り手が第三者を対象として語りながら話を進めていく「三人称小説」の受動態の調査を行うこととした。

【調査対象】

・夏目漱石　　三人称小説　『三四郎』『それから』『門』

【使用テキスト】

岩波書店の『漱石全集』（1993 ～ 1994）をテキストとし、旧仮名遣いを現代仮名遣いに改めて引用することにする。

3　夏目漱石作品における能動態と受動態の主語分類

調査対象の作品を有情物が主語となる受動態の発言動詞に焦点をあて、その発言動詞を能動態と比較して調査することにした。その際に、能動態と受動態の主語と対象人物の分類をすることにした。その分類を以下の【表1】に示す。

【表１　発言動詞における主語と対象人物の分類】

能動態	1）	主語	主役	動作対象	主役の周辺
	2）	主語	主役	動作対象	主役
	3）	主語	主役の周辺	動作対象	主役
	4）	主語	主役の周辺	動作対象	主役の周辺
受動態	5）	主語	主役	動作主体	主役の周辺
	6）	主語	主役の周辺	動作主体	主役
	7）	主語	主役の周辺	動作主体	主役の周辺

以下に、【表１　発言動詞における主語と対象人物の分類】の用例を挙げる。

＊各例文で、□部分が主語、＿＿部分が対象、＿＿部分が態を表す動詞である。

【能動態】

(1) 主語　主役、動作対象　主役の周辺

三四郎が美禰子の顔を見た時には、青竹のなかに何があるか殆ど気が付かなかった。

「どうかしましたか」と思わず（美禰子に）云った。美禰子はまだなんとも答えない。

『三四郎』

(2) 主語　主役、動作対象　主役

が、最後に、自分を此薄弱な生活から救い得る方法は、ただ一つあると考えた。そうして口の内で云った。

「矢っ張り、三千代さんに逢わなくちゃ不可ん」

『それから』

(3) 主語　主役の周辺、動作対象　主役

或日佐々木与次郎に逢って其話をすると、与次郎は四十時間と聞いて、目を丸くして、（三四郎に）「馬鹿々々」と云ったが、「下宿屋のまずい飯を一日に十ぺん食ったら物足りる様になるか考えて見ろ」といきなり警句でもって三四郎を打しつけた。

『三四郎』

(4) 主語　主役の周辺、動作対象　主役の周辺

「御茶なら沢山です」と小六が（御米に）云った。

『門』

【受動態】

(5) 主語　主役、動作主体　主役の周辺

三四郎は靴を脱ぐのが面倒なので、矢っ張り椽側に腰を掛けていた。腹の中では、今になって、茶を遣るという女を非常に面白いと思っていた。三四郎に度外れの女を面白がる積は少しもないのだが、（女に）突然御茶を上げますと云われた時には、一種の愉快を感ぜぬ訳に行かなかったのである。其感じは、どうしても異性に近づいて得られる感じではなかった。

『三四郎』

(6) 主語　主役の周辺　、動作主体　主役

門野は例の調子で、なに訳はありませんと答えた。此男は、時間の考などは、あまりない方だから、斯う簡便な返事が出来たんだが、代助から説明を聞いて始めて成程と云う顔をした。それから荷物を平岡の宅へ届けた上に、万事奇麗に片付く迄手伝をするんだと（代助に）云われた時は、ええ承知しました、なに大丈夫ですと気軽に引き受けて出て行った。

『それから』

(7) 主語　主役の周辺、動作主体　主役の周辺

小六は兄から自分の学資が何れ程あって、何年分の勘定で、叔父に預けられたかを、聞いて置かなかったから、叔母から斯う云われて見ると、一言も返し様がなかった。

『門』

以上を踏まえて、有情物主語の発言動詞を分類した。発言動詞の中で受動態の用例があった動詞を以下の【表 2】で表した。なお、全ての能動態と受動態の発言動詞の表は、巻末に【資料】として載せている。

【表 2-1 『三四郎』 有情物主語　発言動詞分類 】

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1)		2)		3)		4)				5)		6)		7)				
	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例
云う	96	20	1	0	283	58	100	20	480	98	6	1	0	0	2	0	8	2	488
聞く	65	50	0	0	44	34	14	11	123	95	5	4	0	0	1	1	6	5	129
断る	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
叱る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	100	2	100	2
しゃべる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
頼む	1	17	0	0	2	33	0	0	3	50	3	50	0	0	0	0	3	50	6
注意する	0	0	0	0	3	43	2	29	5	71	1	14	0	0	1	14	2	29	7
冷やかす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	1
呼ぶ	0	0	0	0	4	80	0	0	4	80	0	0	0	0	1	20	1	20	5
小計	163	25	1	0	336	52	116	18	616	96	17	3	0	0	8	1	25	4	641

【表 2-2 『それから』 有情物主語　発言動詞分類 】

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1）		2）		3）		4）				5）		6）		7）				
	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例
云う	124	31	2	1	226	57	36	9	388	98	8	2	1	0	0	0	9	2	397
教える	1	33	0	0	1	33	0	0	2	67	1	33	0	0	0	0	1	33	3
調戯う	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
聞く	60	56	0	0	38	35	6	6	104	96	4	4	0	0	0	0	4	4	108
断る	7	70	0	0	2	20	0	0	9	90	1	10	0	0	0	0	1	10	10
叱り飛ばす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
叱る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	40	0	0	3	60	5	100	5
勧める	2	40	0	0	2	40	0	0	4	80	1	20	0	0	0	0	1	20	5
説法する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
宣告する	0	0	1	50	0	0	0	0	1	50	0	0	0	0	1	50	1	50	2
頼む	8	80	0	0	0	0	0	0	8	80	1	10	0	0	1	10	2	20	10
注意する	2	22	0	0	4	44	1	11	7	78	1	11	1	11	0	0	2	22	9
問う	1	33	0	0	1	33	0	0	2	67	1	33	0	0	0	0	1	33	3
話しかける	0	0	0	0	2	40	2	40	4	80	1	20	0	0	0	0	1	20	5
話す	10	37	0	0	8	30	8	30	26	96	1	4	0	0	0	0	1	4	27
賞める	0	0	0	0	1	33	1	33	2	67	0	0	1	33	0	0	1	33	3
呼ぶ	3	43	0	0	2	29	0	0	5	71	1	14	0	0	1	14	2	29	7
小計	219	37	3	1	287	48	54	9	563	94	26	4	3	1	6	1	35	6	598

【表 2-3 『門』 有情物主語　発言動詞分類】

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1）		2）		3）		4）				5）		6）		7）				
	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例
云う	90	28	0	0	168	51	60	18	318	97	5	2	1	0	3	1	9	3	327
聞き糺す	3	30	0	0	0	0	6	0	9	90	1	10	0	0	0	0	1	10	10
聞く	39	45	0	0	24	28	22	26	85	99	1	1	0	0	0	0	1	1	86
口を出す	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
声を掛ける	0	0	0	0	0	0	2	67	2	67	0	0	1	33	0	0	1	33	3
断る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	1
誘う	1	33	0	0	0	0	0	0	1	33	2	67	0	0	0	0	2	67	3
相談を掛ける	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
注意する	2	33	0	0	3	0	0	0	5	83	0	0	0	0	1	17	1	17	6
呼ぶ	4	67	0	0	1	17	0	0	5	83	0	0	1	17	0	0	1	17	6
小計	140	31	0	0	196	44	91	20	427	96	11	2	3	1	5	1	19	4	446

4　三人称小説における発言動詞の能動態と受動態

漱石の三人称小説『三四郎』『それから』『門』において有情物が主語となる発言動詞を能動態と受動態に分けて動詞別に分類し【表 2】に示した。その結果、『三四郎』は能動態 616 例（96％）、受動態 25 例（4％）、『それから』は能動態 563 例（94％）、受動態 35 例（6％）、『門』は能動態 427 例（96％）、受動態 19 例（4％）であり、圧倒的に能動態の使用例が多いという結果になった。

動詞別に見ていくと、用例数が最も多いのはいずれの作品でも「云う」であり、『三四郎』は能動態は 480 例、受動態 8 例、『それから』は能動態 388 例、受動態 9 例、『門』は能動態 318 例、受動態 9 例である。次に多いのは、いずれの作品でも「聞く」であり、『三四郎』は能動態 123 例、受動態 6 例、『それから』は能動態 104 例、受動態 4 例、『門』は能動態 85 例、受動態 1 例である。このように、夏目漱石の三人称小説においては「云

う」「聞く」が多く使用されていることがわかる。

そこで、以下の節で三人称小説における能動態と受動態の選択の問題について詳しく考察を行っていくことにする。

4.1　三人称小説における発言動詞の能動態

【表 2】を見ると、三人称小説における発言動詞の能動態の分類の中では、「主役の周辺人物が主役に発言する」能動態 3）が最も多く用いられており、『三四郎』336 例（52％）、『それから』は 287 例（48％）、『門』は 196 例（44％）であり、各作品全体の約 40％～50％を占めている。

次に使用例が多いのは、「主役が主役の周辺に発言する」能動態 1）であり、『三四郎』は 163 例（25％）、『それから』は 219 例（37％）、『門』は 140 例（31％）であり、いずれも全体の 30％前後を占めている。この三作品の三人称小説は、いずれも語り手が主役の側に立ち主役に寄り添いながら話を展開させていくため、主役を主語にした発言動詞である能動態 1）が多く用いられるのであろう。一方、主役の周辺人物は『三四郎』では主に 14 人、『それから』では 13 人、『門』では 9 人登場する。その中で、語り手は主役の周辺人物が行う動作にはあくまでも主役の周辺人物を主語にして語るため、「主役の周辺人物が主役に発言する」能動態 3）が最も多く用いられることが考えられる。そこで、以下に例文を挙げる。

(8) 三四郎は兎も角も謝る方が安全だと考えた。
「御免なさい」と云った。
女は「いいえ」と答えた。

『三四郎』

(9)「代さん、今日貴方、無論暇でしょう」と（嫂は）云った。
「ええ、まあ暇です」と代助は答えた。
「じゃ、一所に歌舞伎座へ行って頂戴」
代助は嫂の此言葉を聞いて、頭の中に、忽ち一種の滑稽を感じた。けれども今日は平常の様に、嫂に調戯う勇気がなかつた。面倒だから、平気な顔をして、
「ええ宜しい、行きましょう」と機嫌よく答えた。

『それから』

(10) 夫婦は世の中の日の目を見ないものが、寒さに堪えかねて、抱き合って暖を取る様な具合に、御互同志を頼りとして暮らしていた。苦しい時には、御米が何時でも、宗助に、
「でも仕方がないわ」と云った。宗助は御米に、
「まあ我慢するさ」と云った。

『門』

『三四郎』の主役は「三四郎」、『それから』の主役は「代助」、『門』の主役は「宗助」である。(8) ～ (10) のように、「主役が言って、主役の周辺人物が答える」「主役の周辺人物が言って、主役が答える」「主役の周辺人物が言って、主役が言う」という表現がいずれの作品においても多くみられる。つまり、語り手は主役に近づき、主役が発言したら動作対象である周辺人物が発言したなど、語り手が主役に近づいて主役の目を通して動作対象とのやりとりを描く表現、また語り手が主役の周辺人物の動作を表現する際に主役の周辺人物を主語にして動作対象の主役に発言するという表現も多く用いられるため、「主役の周辺人物が主役に発言する」能動態 3）と「主役が主役の周辺に発言する」能動態 1）を合わせた割合は、いずれの作品においても全体の約 75％～ 80％を占めるのであろう。

それに対し、能動態の分類の中で「主役が主役に発言する」能動態 2）は、『三四郎』に 1 例『それから』に 3 例ある。これは例文（2）に挙げているように、主役が主役自身に発言するという独り言のような表現は、次々に話が展開していくような小説テクストでは用例が非常に少ないということが言える。

また、「主役の周辺人物が主役の周辺人物に発言する」能動態 4）は、『三四郎』116 例（18％）、『それから』54 例（9％）、『門』91 例（20％）である。以下に用例を挙げる。

(11) 野々宮さんは返事を已めて、広田先生の方を向いたが、

「女には詩人が多いですね」と笑いながら云った。すると広田先生が、

「男子の弊は却って純粋の詩人になり切れない所にあるだろう」と妙な挨拶をした。野々宮さんはそれで黙った。よし子と美禰子は何か御互の話を始める。三四郎は漸く質問の機会を得た。

「今のは何の御話しなんですか」

「なに空中飛行器の事です」と野々宮さんが無造作に云った。三四郎は落語のおちを聞く様な気がした。

『三四郎』

(12) 誠吾は赤い瞼をして、ぽかんと葉巻の烟を吹いていた。

「ねえ、貴方」と梅子が催促した。誠吾はうるさそうに葉巻を指の股へ移して、

「今のうち沢山勉強して貰って置いて、今に此方が貧乏したら、救って貰う方が好いじゃないか」と云った。梅子は、

「代さん、あなた役者になれて」と聞いた。代助は何にも云わずに、洋盞を姉の前に出した。梅子も黙って葡萄酒の壜を取り上げた。

『それから』

(13) 宗助も面白くなって、黙って手招ぎをして見た。すると唐紙をぴたりと閉てて、向う側で三四人が声を合して笑い出した。

やがて一人の女の子が、

「よう、御姉様またいつものように叔母さんごっこしましょうよ」と云い出した。すると姉らしいのが、

「ええ、今日は西洋の叔母さんごっこよ。東作さんは御父さまだからパパで、雪子さんは御母さまだからママって云うのよ。可くって」と説明した。其時又別の声で、

「可笑しいわね。ママだって」と云って嬉しそうに笑ったものがあった。

「私夫でも何時も御祖母さまなのよ。御祖母さまの西洋の名がなくっちゃ不可ないわねえ。御祖母さまは何て云うの」と聞いたものもあった。

「御祖母さまは矢っ張りババで可いでしょう」と姉が又説明した。

夫から当分の間は、御免下さいましだの、何方から入らっしゃいましたのと盛に挨拶の言葉が交換されていた。其間にはちりんちりんと云う電話の仮色も交った。凡てが宗助には陽気で珍らしく聞えた。

『門』

（11）～（13）では、語り手が『三四郎』の主役「三四郎」、『それから』の主役「代助」、『門』の主役「宗助」の側に寄り添いながらも周辺人物の発話する様子を描く場面に、こうした発言動詞の能動態が多く用いられている。このように、「主役の周辺人物が主役の周辺人物に発言する」能動態 4）は、語り手が主役の側に立ちながらも主役を通して周辺人物の発言を描写する際に用いられることが多いのである。

4.2　三人称小説における言い換え可能な能動態と受動態

ここで、能動態 3）と受動態 5）の文法構造について考えてみたい。【表 2】の「主語が主役の周辺人物で動作対象が主役となる」能動態 3）と「主語が主役で動作主体が周辺人物となる」受動態 5）の文は、言い換えが可能な文である。

能動態 3）例：兄は　私に　言った。　（主語が主役の周辺で、動作対象が主役）

受動態 5）例：私は　兄に　言われた。（主語が主役で、動作主体が主役の周辺）

以上のことを踏まえて、能動態 3）と受動態 5）の用例数の多い「云う」「聞く」を挙げると、『三四郎』では「云う」は能動態 3）283 例（58％）、受動態 5）6 例（1％）、「聞く」は能動態 3）44 例（34％）、受動態 5 例（4％）である。『それから』では「云う」は能動態 3）226 例（57％）、受動態 5）8 例（2％）、「聞く」は能動態 3）38 例（35％）、受動態 5）4 例（4％）、『門』では「云う」は能動態 3）168 例（51％）、受動態 5）5 例（2％）、「聞く」は能動態 3）24 例（28％）、受動態 5）1 例（1％）である。そこで、用例数が多い「云う」の能動態 3）と受動態 5）の文について考えてみたい。

能動態 3）の例を挙げると、以下のようになる。

（14）三四郎は勝手口に立って考えた。婆さんは気を利かして、（三四郎に）まあ御這入りなさい。先生は書斎に御出ですからと云いながら、手を休めずに、膳椀を洗っている。今晩食が済んだ許の所らしい。

三四郎は茶の間を通り抜けて、廊下伝いに書斎の入口迄来た。

『三四郎』

（15）「嫁の事か」と誠吾が（代助に）聞いた。

「まあ、左うだろうと思うんです」

「貰って置くがいい。そう老人に心配さしたって仕様があるものか」と云ったが、今度はもつと判然した語勢で、

「気を付けないと不可よ。少し低気圧が来ているから」と注意した。代助は立ち掛けながら、

「まさか此間中の奔走からきた低気圧じゃありますまいね」と念を押した。

『それから』

（16）宗助はついでだから、それと同時に、叔父に保管を頼んだ書画や骨董品の成行を確かめて見た。すると、叔母は、（宗助に）

「ありゃあとんだ馬鹿な目に逢って」と云いかけたが、宗助の様子を見て、

「宗さん、何ですか、あの事はまだ御話をしなかったんでしたかね」と聞いた。宗助がいいえと答えると、

「おやおや、それじゃ叔父さんが忘れちまったんですよ」と云いながら、その顛末を語って聞かした。

『門』

この（14）～（16）は、主役の周辺人物『三四郎』では「婆さん」、『それから』では「誠吾」、『門』では「叔母」がそれぞれの主役「三四郎」「代助」「宗助」に対して「云う」「聞く」「注意する」「語る」などと発言する場面であるが、そこでは語り手が主役の側から離れて、客観的に主役と主役の周辺人物とのやりとりの様子を描写して述べているものである。

それに対して、受動態5）の例を挙げると、以下のようになる。

（17）けれども恐ろしい。（三四郎が）別れ際にあなたは度胸のない方だと（女に）云われた時には、喫驚した。二十三年の弱点が一度に露見したような心持であった。親でもああ旨く云い中てるものではない。

『三四郎』

（18）平岡の細君は、色の白い割に髪の黒い、細面に眉毛の判然映る女である。一寸見ると何所となく淋しい感じの起る所が、古版の浮世絵に似ている。帰京後は色光沢

がことに可くないようだ。始めて旅宿で逢った時、代助は少し驚ろいた位である。汽車で長く揺られた疲れが、まだ回復しないのかと思って、聞いて見たら、左様じゃない、始終斯うなんだと（平岡の細君に）云われた時は、気の毒になった。

『それから』

(19)「だからさ。叔父さんの方では、御金の代りに家と地面を貰った積で入らっしゃるかも知れなくってよ」と御米が云う。

そう云われると、宗助も叔父の処置に一理ある様にも思われて、口では、

「その積が好くないじゃないか」と答弁する様なものの、此問題は其都度次第々々に背景の奥に遠ざかって行くのであった。

『門』

（17）～（19）は、ともにそれぞれの主役「三四郎」「代助」「宗助」が主役の周辺人物に「云われる」と動作を受けることで「喫驚した」「気の毒になった」「一理ある様に思われて」など、語り手は主役の側に立ち、主役が周辺人物からの発言を受けたことで、主役に何らかの感情が生じたことを表現しようとする際に、被動作主である主役を主語にして受動態が用いられていることが多いことが窺える。

このように、一文の中で「言われる」と動作主体から動作を受けたことによって、主役に何らかの感情が生まれ、その感情を表現するために「周辺人物が主役に言う」という事実のみを表現する能動態ではなく、敢えて「主役は周辺人物に言われて、…感情表現」という受動態と感情表現をともに用いる表現が受動態 5）の用例に多くみられるのである。

4.3　三人称小説における発言動詞の受動態

「主語が主役の周辺人物で動作主体が主役となる」受動態 6）の用例が『それから』に 3 例（1%）、『門』に 3 例（1%）見られる。以下に用例を挙げる。

(20) 門野は例の調子で、なに訳はありませんと答えた。此男は、時間の考などは、あまりない方だから、斯う簡便な返事が出来たんだが、代助から説明を聞いて始めて成程と云う顔をした。それから荷物を平岡の宅へ届けた上に、万事奇麗に片付く迄手伝をするんだと（代助に）云われた時は、ええ承知しました、なに大丈夫ですと気軽に引き受けて出て行った。

『それから』

(21) 御米は叔母が来るたんびに、叔母さんは若いのねと、後でよく宗助に話した。すると宗助が何時でも、若い筈だ、あの年になる迄、子供をたった一人しか生まないんだからと説明した。御米は実際そうかも知れないと思った。そうして斯う（宗助に）云われた後では、折々そっと六畳へ這入って、自分の顔を鏡に映して見た。その時

は何だか自分の頬が見る度に瘠けて行く様な気がした。

『門』

『それから』の主役は「代助」であり、『門』の主役は「宗助」である。しかし、(20)(21) では、語り手は主役以外の周辺人物「門野」「御米」に視点を移して、「門野」「御米」の側にたち、「門野」「御米」を主語にして語っている。そのため、主役の「代助」「宗助」が主役の周辺人物「門野」「御米」に「言う」動作においても、ここでは主役以外の主役の周辺人物に視点を統一するために被動作主の「門野」「御米」を主語にした受動態が用いられているのである。このように、主役の周辺人物を主語にした受動態は、語り手の視点が自由に移動しやすい三人称小説に見られる特徴とも言えるであろう。

また、「主語が主役の周辺人物で動作主体が主役の周辺人物となる」受動態 7）においても用例が『三四郎』に 8 例（1%）、『それから』に 6 例（1%）、『門』に 5 例（1%）ある。以下に用例を挙げる。

(22) その（与次郎の論文）中には「禿を自慢するものは老人に限る」とか「ヴィーナスは波から生れたが、活眼の士は大学から生れない」とか「博士を学界の名産と心得るのは、海月を田子の浦の名産と考える様なものだ」とか色々面白い句が沢山ある。然しそれより外に何にもない。殊に妙なのは、広田先生を偉大なる暗闇に喩えた序に、他の学者を丸行燈に比較して、たかだか方二尺位の所をぼんやり照らすに過ぎない抔と、自分（与次郎）が広田から云われた通りを書いている。そうして、丸行燈だの雁首抔は凡て旧時代の遺物で我々青年には全く無用であると、此間の通りわざわざ断わってある。

能く考えて見ると、与次郎の論文には活気がある。如何にも自分一人で新日本を代表している様であるから、読んでいるうちは、つい其気になる。けれども全く実がない。

『三四郎』

(23) 誠吾は此断定を証明する為めに、色々な例を挙げた。誠吾の門内に藤野と云う男が長屋を借りて住んでいる。其藤野が近頃遠縁のものの息子を頼まれて宅へ置いた。所が其子が徴兵検査で急に国へ帰らなければならなくなったが、前以て国から送ってある学資も旅費も藤野が使ひ込んでいると云うので、一時の繰り合せを頼みに来た事がある。無論誠吾が直に逢ったのではないが、妻に云い付けて断らした。夫でも其子は期日迄に国へ帰って差支なく検査を済ましている。

『それから』

(24) 御米は何う云うものか、新橋へ着いた時、老人夫婦に紹介されたぎり、曾つて叔父の家の敷居を跨いだ事がない。向から見えれば叔父さん叔母さんと丁寧に接待するが、帰りがけに、

「何うです、些と御出かけなすっちゃ」などと云われると、ただ、
「有難う」と頭を下げる丈で、遂ぞ出掛けた試はなかった。

『門』

（22）～（24）の受動態は、語り手が主役の周辺人物『三四郎』では「与次郎」、『それから』では「藤野」、『門』では「御米」を話題にして語っている場面である。ただし、ここでは「与次郎」「藤野」「御米」の感情を表しているのではなく、語り手が「与次郎」「藤野」「御米」の「言われる」という受けた動作を単に表現しているのみである。このように、主役の周辺人物が話題となる場面で主役の周辺人物が受けた動作を表現する際には、周辺人物に視点を固定して、被動作主である周辺人物を主語にして受動態が用いられるものと考えられる。

最後に、「主語が主役の周辺人物で動作主体が主役の周辺となる」受動態 7）に用例のある「叱る」「冷やかす」について考えてみたい。「叱る」「冷やかす」という動詞は、「叱られる」「冷やかされる」と受動態になると、受動態そのものに迷惑の意味を伴うものである。「叱る」は、いずれの作品にも能動態に用例はなく、『三四郎』に受動態 2 例、『それから』に受動態 5 例使用されている。「冷やかす」も能動態に用例はなく、『三四郎』に受動態が 1 例使用されている。さらに、「叱る」は、「主語が主役で動作主体が主役の周辺人物となる」受動態 5）に用例があるのみならず、「主語が主役の周辺人物で動作主体が主役の周辺人物となる」受動態 7）にも用例がある。受動態 7）の用例は、『三四郎』に「叱る」2 例、「冷やかす」1 例、『それから』に「叱る」3 例あり、「叱られる」「冷やかされる」と受動態になることで語彙自体に迷惑の意味を伴う動詞に主役の周辺人物が主語になるという用例が存在することは、特筆すべきことである。以下に例を挙げる。

（25）（与次郎は）やり掛けた途中でそんな事が知れると先生に叱られるに極ってるから黙って居るべきだという。話して可い時には己が話すと明言しているんだから仕方がない。三四郎は話を外らして仕舞った。

『三四郎』

（26）広田先生は夫で話を切った。鼻から例によって煙を吐く。与次郎は此煙の出方で、先生の気分を窺う事が出来ると云っている。濃く真直ぐに迸る時は、哲学の絶好頂に達した際で、緩く崩れる時は、心気平穏、ことによると（広田先生に）冷やかされる恐れがある。烟が、鼻の下に低回して、髭に未練がある様に見える時は、瞑想に入る。もしくは詩的感興がある。尤も恐るべきは孔の先の渦である。渦が出ると、大変に叱られる。与次郎の云う事だから、三四郎は無論当にはしない。

『三四郎』

（27）三千代はでも、余りだからとまだ躊躇した。代助は、平岡に知れると叱られるの

かと聞いた。三千代は叱られるか、賞められるか、明らかに分らなかったので、矢張り愚図々々していた。

『それから』

（25）（26）の受動態の主語は、主役の「三四郎」ではなく、主役の周辺人物である三四郎の友達「与次郎」である。この（25）（26）は、語り手が「与次郎」に近づき、「与次郎」を主語にして与次郎の思いを三四郎に語っている場面である。こうした場面では、主役ではない主役の周辺人物を主語にして被動作主の周辺人物が受けた動作とそれに伴う「に極っている」「恐れがある」などの感情を表現する際に受動態 7）が用いられている。そして、（27）の受動態の主語も主役の「代助」ではなく、代助の思い人「三千代」である。さらに、ここでは、「三千代は躊躇した」→「代助は聞いた」→「三千代は叱られるか褒められるか分からなかったので、愚図愚図していた」と「三千代」と「代助」が交互に主語になり、やりとりが展開されている。つまり、全体のテクストでは、語り手は主役の代助に寄り添いながらも、周辺人物の「三千代」の感情に寄り添う場面では「三千代」が主語になり、三千代が主役の周辺人物「平岡」から受ける動作によって迷惑や恩恵の感情を生じる際に受動態 7）が用いられているのである。調査対象の三人称小説では、語り手は全体としては主役に寄り添い話を展開していくが、主役の周辺人物が誰かから迷惑や恩恵を被った気持ちを表現したい場合は、主役の周辺人物に近づき、被動作主である周辺人物を主語にして話を展開する場合も見られる。このため、調査対象の三人称小説では、主役だけではなく主役の周辺人物が主語となり「冷やかされる」「叱られる」など動詞の意味に迷惑の感情表現を伴う受動態が使用される場面がしばしば見られることが考えられる。

5　まとめ

本稿では、夏目漱石の前期三部作である三人称小説『三四郎』『それから』『門』における発言動詞に焦点をあて、能動態と受動態の用例数を調査して受動態が選択される要因について考察を行った。その結果、以下のことが明らかとなった。

三人称小説の能動態の用例としては「主役の周辺人物が主役に発言する」能動態 3）と「主役が主役の周辺人物に発言する」能動態 1）の用例が圧倒的に多い。それは「主役が言って、主役の周辺人物が答える」「主役が聞いて、主役の周辺人物が言う」などの形式の表現が多く用いられるからであると言えよう。

また、三人称小説において受動態が選択されるものには、「主語が主役で動作主体が周辺人物となる」受動態 5）が使用される用例が最も多く、『三四郎』『それから』『門』の三作品合わせて 54 例であり、全体としては、三人称小説においても主役を軸として話が展開されていくことが確認された。しかし、その一方で、「主語が主役の周辺人物で動作主体が主役となる」受動態 6）が 6 例出現した。これは視点が主役から主役の周

辺人物に移動して、周辺人物を主語にした受動態が選択されることがあるということである。また、「主語が主役の周辺人物で動作主体が主役の周辺人物となる」受動態 7）が 19 例と、主役が登場せず、主役の周辺人物が主語になり、動作主体も周辺人物になる受動態の用例が出現した。これも、語り手が主役の周辺人物の気持ちに共感した際には、主役から離れて周辺人物に視点を移動し語ることがあり、その際には主役の周辺人物に焦点をあて主語にして、受動態が選択されることが明らかとなった。これは語り手の視点が移動しやすい三人称小説の特徴とも言えるだろう。

このように小説テクストに用いられる発言動詞を人称別に「能動態」と「受動態」に分けて分類し、調査した結果、調査対象の三人称小説は、語り手が主役に寄り添っていることが多く、その中で主役が発言する動作には、主役が主語となり能動態が選択される。それに対して、主役の周辺人物が主役に発言する動作には、周辺人物が主語になり能動態が選択される。一方、主役の周辺人物が発言する動作を主役が受けた際に主役に何らかの感情を生じる場合は、被動作主である主役が主語になり、受動態が選択されて、感情表現を伴って描かれることが多い。また、主役の周辺人物が主役や周辺人物の発言する動作を受けた際に何らかの感情を生じる場合は、被動作主の周辺人物が主語になり、受動態が選択され、ここでも感情表現を伴って描かれることが多い。つまり、主役であれ主役の周辺人物であれ、動作を受けたことで何らかの感情を生じる場合は、受動態が選択され、主語が動作主体から被動作主に変わることがあることが窺える。

以上のことから、人称、語り手の視点によって「能動態」と「受動態」がそれぞれ選択される要因の一端が明らかになったのではないかと考える。

今後は、さらに、一人称小説との比較、他の意味を擁する動詞にも焦点をあて、能動態と受動態を比較し、小説テクストにおける受動態と語り手の視点との関わりをさらに明確にすることを課題としたい。

注

1　小嶋（2004）は、文学作品における受身文を「多くの文学作品では、主人公など軸となる人物の立場から述べる文が優先されている」と述べており、さらに、『走れメロス』を例にして、「メロスに～される」など主人公である人物が補語の位置に働き手として差し出されるような受身文が使われる事は非常に少ないと述べている。

2　拙稿（2011a）では、一人称小説、三人称小説それぞれの受身に使用される動詞について取り上げ、受身の分類ごとに分析して考察した。その結果、一人称小説・三人称小説ともに受身では「言う」が最も多く使用されていることが明らかになった。拙稿（2011a）では、「言う」を伝達動詞と分類していたが、本稿では「発言動詞」と分類することにする。

参考文献

石丸晶子（1985）「文章における視点」『日本語学』4 巻 12 号，明治書院，pp.22-31

奥津敬一郎（1983）「何故受身か？―＜視点＞からのケーススタディ―」『国語学』132 巻，pp.65-80.
――――（1992）「日本語の受身文と視点」『日本語学』11 巻 9 号，pp.4-11.
金水敏（1992）「場面と視点―受身文を中心に―」『日本語学』11 巻 9 号，pp.12-19.
久野暲（1983）『新日本文法研究』，大修館書店
小嶋栄子（2004）「文学作品における効果的なうけみ文の使用」『21 世紀言語学研究 鈴木康之教授古希記念論集』，白帝社，pp.181-197.
柴谷方良（1997）「『迷惑受身』の意味論」『日本語文法　体系と方法』，ひつじ書房，pp.1-22
清水慶子（1980）「非情の受身の一考察」『成蹊国文』第 14 号，pp.46-52.
寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味　第Ⅰ巻』，くろしお出版
仁田義雄（1991）「ヴォイス的表現と自己制御性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』，くろしお出版，pp.31-57.
益岡隆志（1991）「受動表現と主観性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』，くろしお出版，pp.105-121.
松下大三郎（1930）『標準日本口語法』，勉強社
三上章（1972）『現代語法序説』，くろしお出版
宮沢健太郎（1997）『漱石の文体』，洋々社
山本和恵（2011a）「小説テクストにおける受身表現の述語動詞」『同大語彙研究』第 14 号，pp.26-42.
――――（2011b）「小説テクストにおける受身表現の使用傾向」『同志社国文学』第 74 号，pp.150-133.

資料

【表 2-1 『三四郎』 有情物主語　発言動詞分類（全体）】

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1)		2)		3)		4)				5)		6)		7)				
	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例	（%）	例
挨拶する	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
挨拶をする	1	50	0	0	0	0	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
言いかける	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い切る	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い捨てる	1	33	0	0	2	67	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
云い出す	5	25	0	0	10	50	5	25	20	100	0	0	0	0	0	0	0	0	20
云い訳をする	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云う	96	20	1	0	283	58	100	20	480	98	6	1	0	0	2	0	8	2	488
依頼する	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
異を立てる	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
訴える	0	0	0	0	0	0	3	100	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
教える	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞き返す	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
聞き出す	0	0	0	0	6	75	2	25	8	100	0	0	0	0	0	0	0	0	8
聞きただす	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞き直す	2	67	0	0	1	33	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
聞く	65	50	0	0	44	34	14	11	123	95	5	4	0	0	1	1	6	5	129
拒絶する	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口をきく	3	43	0	0	4	57	0	0	7	100	0	0	0	0	0	0	0	0	7
口を出す	0	0	0	0	0	0	2	100	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
声を掛ける	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
答える	43	62	0	0	20	29	6	9	69	100	0	0	0	0	0	0	0	0	69
断る	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
ささやく	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
叱る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	100	2	100	2
質問する	0	0	0	0	1	33	2	67	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
しゃべる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
主張する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
勧める	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
請求する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
説明する	1	20	0	0	2	40	2	40	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
宣言する	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
尋ね出す	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
尋ねる	9	100	0	0	0	0	0	0	9	100	0	0	0	0	0	0	0	0	9
頼む	1	17	0	0	2	33	0	0	3	50	3	50	0	0	0	0	3	50	6
注意する	0	0	0	0	3	43	2	29	5	71	1	14	0	0	1	14	2	29	7
問い返す	1	33	0	0	2	67	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
生返事をする	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
述べる	7	50	0	0	2	14	5	36	14	100	0	0	0	0	0	0	0	0	14
話しかける	1	17	0	0	3	50	2	33	6	100	0	0	0	0	0	0	0	0	6
話し出す	0	0	0	0	2	67	1	33	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
話しをする	1	33	0	0	1	33	1	33	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
話す	9	38	0	0	11	46	4	17	24	100	0	0	0	0	0	0	0	0	24
冷やかす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	1
評する	0	0	0	0	3	60	2	40	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
弁解する	1	25	0	0	1	25	2	50	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
弁解をする	0	0	0	0	0	0	2	100	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
弁護する	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
返事をする	3	60	0	0	1	20	1	20	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
呼ぶ	0	0	0	0	4	80	0	0	4	80	0	0	0	0	1	20	1	20	5
小計	260	30	1	0	418	48	164	19	843	97	17	2	0	0	8	1	25	3	868

【表 2-2 『それから』 有情物主語　発言動詞分類（全体）】

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1)		2)		3)		4)				5)		6)		7)				
	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例
挨拶をする	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い得る	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い置く	1	50	0	0	0	0	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い終る	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い掛ける	2	40	0	0	3	60	0	0	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
云い切る	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い過ぎる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い捨(棄)てる	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云いそびれる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い出す	4	29	0	0	8	57	2	14	14	100	0	0	0	0	0	0	0	0	14
云い尽くす	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云い付ける	1	25	0	0	1	25	2	50	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
云い募る	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い放す	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い放つ	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い淀む	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
言訳をする	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云う	124	31	2	1	226	57	36	9	388	98	8	2	1	0	0	0	9	2	397
云って来る	0	0	0	0	1	33	2	67	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
依頼する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
打ち明ける	9	90	0	0	0	0	1	10	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	10
訴える	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
教える	1	33	0	0	1	33	0	0	2	67	1	33	0	0	0	0	1	33	3
仰る	0	0	0	0	0	0	1	33	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
語り出す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
語り始める	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
語る	10	56	0	0	8	44	0	0	18	100	0	0	0	0	0	0	0	0	18
調戯う	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
聞き合す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞き合わせる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞き返す	6	60	0	0	4	40	0	0	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	10
聞き出す	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞き直す	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
聞き糺す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞く	60	56	0	0	38	35	6	6	104	96	4	4	0	0	0	0	4	4	108
口にする	3	43	0	0	4	57	0	0	7	100	0	0	0	0	0	0	0	0	7
口に出す	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
口へ出す	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
口を利く	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
口を切る	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
口を添える	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口を開く	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
公言する	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
声を掛ける	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
告白する	2	67	0	0	1	33	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
答える	50	58	0	0	31	36	5	6	86	100	0	0	0	0	0	0	0	0	86
答をする	5	100	0	0	0	1	0	0	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
言葉を掛ける	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
断る	7	70	0	0	2	20	0	0	9	90	1	10	0	0	0	0	1	10	10
催促する	0	0	0	0	1	50	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
囁く	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
誘う	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
諭す	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
叱り飛ばす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
叱る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	40	0	0	3	60	5	100	5
質問を掛ける	1	33	0	0	2	67	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
自白する	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
喋舌る	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
舌り立てる	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
主張する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1

	能動態										受動態								
	主語対象	主役周辺	主語対象	主役主役	主語対象	周辺主役	主語対象	周辺周辺	小計		主語主体	主役周辺	主語主体	周辺主役	主語主体	周辺周辺	小計		合計
	1)		2)		3)		4)				5)		6)		7)				
	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例
奨励する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知らせる(報せる)	0	0	0	0	4	100	0	0	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
勧める	2	40	0	0	2	40	0	0	4	80	1	20	0	0	0	0	1	20	5
説法する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	1
説明する	3	43	0	0	4	57	0	0	7	100	0	0	0	0	0	0	0	0	7
説明をする	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
宣告する	0	0	1	50	0	0	0	0	1	50	0	0	0	0	1	50	1	50	2
相談をかける	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
確かめる	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
窘める	0	0	0	0	1	50	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
尋ねる	10	71	0	0	3	21	1	7	14	100	0	0	0	0	0	0	0	0	14
頼む	8	80	0	0	0	0	0	0	8	80	1	10	0	0	1	10	2	20	10
注意する	2	22	0	0	4	44	1	11	7	78	1	11	1	11	0	0	2	22	9
告げる	1	50	0	0	0	0	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
つぶやく	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
点じる	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
問い返す	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
問い尽くす	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
問う	1	33	0	0	1	33	0	0	2	67	1	33	0	0	0	0	1	33	3
説き出す	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
説き付ける	0	0	0	0	0	0	2	100	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
説く	0	0	0	0	2	100	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
問を掛ける	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
慰める	1	50	0	0	0	0	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
生返事をする	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
述べ出す	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
述べ立てる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
述べる	7	58	0	0	5	42	0	0	12	100	0	0	0	0	0	0	0	0	12
罵倒する	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
話しかける	0	0	0	0	2	40	2	40	4	80	1	20	0	0	0	0	1	20	5
話し草臥れる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
話し尽す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
話しつづける	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
話し始める	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
話をする	5	71	0	0	0	0	2	29	7	100	0	0	0	0	0	0	0	0	7
話す	10	37	0	0	8	30	8	30	26	96	1	4	0	0	0	0	1	4	27
批評する	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
冷やかす	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
評する	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
冷評返す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
弁解する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
弁解をする	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
返事をする	11	55	0	0	8	40	1	5	20	100	0	0	0	0	0	0	0	0	20
弁明する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
賞める	0	0	0	0	1	33	1	33	2	67	0	0	1	33	0	0	1	33	3
明言する	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
命じる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
命令する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
申し出る	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
洩らす	0	0	0	0	2	67	1	33	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
呼び返す	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	1
呼び掛(懸)ける	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	0	0	0	0	1	50	1	50	2
呼び留める	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
呼ぶ	3	43	0	0	2	29	0	0	5	71	1	14	0	0	1	14	2	29	7
小計	397	42	5	1	417	44	82	9	901	96	27	3	4	0	7	1	38	4	939

【表 2-3 『門』 有情物主語　発言動詞分類（全体）】

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1)		2)		3)		4)				5)		6)		7)				
	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例
挨拶する	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
挨拶をする	3	33	0	0	6	67	0	0	9	100	0	0	0	0	0	0	0	0	9
云いおく	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
云いかける	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い切る	3	30	0	0	1	10	6	60	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	10
云い捨てる	1	50	0	0	0	0	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
云い出す	11	48	0	0	9	39	3	13	23	100	0	0	0	0	0	0	0	0	23
云いつける	1	33	0	0	0	0	2	67	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
云い続ける	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
言訳をする	0	0	0	0	3	75	1	25	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
云う	90	28	0	0	168	51	60	18	318	97	5	2	1	0	3	1	9	3	327
打ち明ける	0	0	0	0	1	50	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
訴える	1	25	0	0	2	50	1	25	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
教える	2	40	0	0	3	60	0	0	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
語り合う	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
語り合う	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
語り出す	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
語る	6	55	0	0	5	45	0	1	11	100	0	0	0	0	0	0	0	0	11
調戯う	0	0	0	0	1	100	0	1	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
聞き返す	3	43	0	0	2	29	2	29	7	100	0	0	0	0	0	0	0	0	7
聞き出す	0	0	0	0	3	100	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
聞き糺す	3	30	0	0	0	0	6	0	9	90	1	10	0	0	0	0	1	10	10
聞く	39	45	0	0	24	28	22	26	85	99	1	1	0	0	0	0	1	1	86
口にする	3	75	0	0	1	25	0	0	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
口を利く	3	50	0	0	0	0	3	50	6	100	0	0	0	0	0	0	0	0	6
口を切る	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口を出す	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
声を掛ける	0	0	0	0	0	0	2	67	2	67	0	0	1	33	0	0	1	33	3
答える(応える)	31	38	0	0	33	41	17	21	81	100	0	0	0	0	0	0	0	0	81
答をする	1	20	0	0	2	40	2	40	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
零す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
断る	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	1
誘う	1	33	0	0	0	0	0	0	1	33	2	67	0	0	0	0	2	67	3
覚す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
質問を掛ける	3	100	0	0	0	0	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
述懐をする	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
助言を与える	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
勧める	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
説明する	3	27	0	0	4	36	4	36	11	100	0	0	0	0	0	0	0	0	11
相談する	4	80	0	0	1	20	0	0	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
相談を掛ける	1	50	0	0	0	0	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	2
尋ねる	7	78	0	0	1	11	1	11	9	100	0	0	0	0	0	0	0	0	9
頼む(依頼む)	1	25	0	0	3	75	0	0	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
注意する	2	33	0	0	3	0	0	0	5	83	0	0	0	0	1	17	1	17	6
注意を与える	0	0	0	0	2	0	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
注意を加える	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
注意をする	0	0	0	0	1	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
告げる	2	40	0	0	3	0	0	0	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
伝える	0	0	0	0	1	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
問い返す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
問い糺す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
問いつめる	1	100	0	3	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
問う	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
答弁する	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
咎める	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
説く	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
慰める	0	0	0	0	2	40	3	60	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
述べ立てる	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
述べる	2	20	0	0	0	0	8	80	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	10
吐く	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1

	能動態										受動態								
	主語 対象	主役 周辺	主語 対象	主役 主役	主語 対象	周辺 主役	主語 対象	周辺 周辺	小計		主語 主体	主役 周辺	主語 主体	周辺 主役	主語 主体	周辺 周辺	小計		合計
	1)		2)		3)		4)				5)		6)		7)				
	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例	(%)	例
話し合う	3	100	0	0	0	0	0	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
話しかける	1	25	0	0	0	0	3	75	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
話し始める	0	0	0	0	0	0	1	100	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
話し出す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
話をする	6	55	0	0	0	0	5	45	11	100	0	0	0	0	0	0	0	0	11
話す	15	100	0	0	0	0	0	6	15	100	0	0	0	0	0	0	0	0	15
一口洩らす	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
一言返す	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
批評を下す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
評す	0	0	0	0	0	0	2	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不平を並べる	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
弁解する	2	40	0	0	1	20	2	40	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	5
弁護する	2	50	0	0	1	25	1	25	4	100	0	0	0	0	0	0	0	0	4
返事を返す	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
返事をする	1	10	0	0	9	90	0	0	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	10
返答をする	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
命じる	2	67	0	0	0	0	1	33	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	3
命ずる	1	100	0	0	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
申し添える	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
申し出す	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	1
申し出る	1	50	0	0	1	50	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
呼び止める	1	50	0	0	0	0	1	50	2	100	0	0	0	0	0	0	0	0	2
呼ぶ	4	67	0	0	1	17	0	0	5	83	0	0	1	17	0	0	1	17	6
小計	285	37	0	0	309	40	165	21	759	98	11	1	3	0	5	1	19	2	778